

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 3年次および4年次生における履修単位数上限を50単位未満とする	→ 3年次および4年次生における履修単位数上限	A	A			
2. 教員・学生間の学習上の双方向性を向上させる	→ ミニッツ・ペーパー、小テストなどの利用数及びフィードバック状況、学生による授業評価など	B	B			
3. 到達目標および科目相互の関連性に配慮したシラバスを作成する	→ シラバスにおいて到達目標および科目相互の関連性を明示している授業数	C	B			
4. 多面的な評価方法に基づく明確な評価基準を導入する	→ 多面的な評価方法と明確な評価基準を導入している授業数	B	B			
5. 少人数教育を徹底する	→ 基礎演習・インターミディエイト演習などの演習クラス定員減員(20名以下)	B	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 「教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用」に関しては、事前登録科目の拡充により、最大履修者数および大人数科目数の抑制が進んだ。また、演習科目において少人数教育の徹底が図られた。 「履修科目登録の上限設定、学習指導の充実」に関しては、いずれも適切にルールが策定され、運用されている。 「学生の主体的参加を促す授業方法」に関しては、1年生対象のオムニバス形式のリレー講義において、フィードバックのスピードと頻度を改善した。また、他の講義科目においてもフィードバックが推奨されている。
----------	---

★ 小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
	(説明) 全科目のシラバスにおいて到達目標が明示されている。 また、社会心理領域、およびリサーチ講読科目領域において、科目間の関連性に配慮した調整が進んだ結果、段階履修的な要素がシラバスに反映された。
★ 小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
	(説明) 全科目のシラバスにおいて成績評価と単位認定の基準が明示されている。
★ 小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
	(検証の有無) <b>いずれかにチェックしてください。</b> →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 「明確な評価基準」に関してはシラバスにグレーディング基準を明記する形で実現済みである。「多面的な評価方法」については、それを測定するための指標を検討しているところである。
その他	

《評価指標データ》

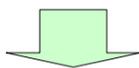
- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★ 小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★ 小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目6.3.1		
小項目6.3.2		
★小項目6.3.3		
小項目6.3.4		
その他		

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目6.3.1		
小項目6.3.2		
★小項目6.3.3		
小項目6.3.4		
その他		

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

## Ⅲ. 学内第三者評価

## &lt;評価専門委員会の評価&gt;

## 【学外委員】

- おおむね順調に進展していると認められます。
- 大項目6全体に言えることですが、「現状の説明」の記述が具体的でわかりやすいことは評価できます。

## 【学内委員】

- 教育内容・方法・成果について、目標へ向け、適切な活動が行われていると思われま。
- 演習科目において少人数教育の徹底がなされている点や大人数科目数の抑制が進んでいる点は大いに評価できます。また、シラバスにおいて科目間の関連性や成績評価基準、単位認定基準などが明記されたことも大いに評価できます。小項目6.3.4の現状報告の内容が趣旨と異なるような印象を受けました。6.3.4よりも6.3.3ではないでしょうか？
- 最大履修者数および大人数科目数の抑制を図られ、改善されたことは評価できます。
- 履修単位数上限については、2010年度入学生から全学年半期24単位、年間48単位としている旨の説明があれば、現状がより一層分かりやすいと思います。その他についても、大学基準協会の留意事項における基盤評価の内容に沿うように記述することで、より具体的で的確な説明になると思います。
- 小項目6.3.4については、大学基準協会は基盤評価を「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」としています。これに関する記述が必要かと思われま。

## 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

## ○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

## ○小項目6.3.2&amp;6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

## ○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」  
達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

## ○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし	
-----	--